

◇ 編集後記 ◇

『棲神』六七号をお届けいたします。

各分野における新鮮な研究成果がこうして続々と発表されますことは、為法為山、ご同慶の至りで、そのご苦勞に対し、会員諸賢と共に深甚の謝意を表するものであります。

さて、喜びのご報告を申し上げます。既に会員諸賢ご承知のごとく、「開宗七五〇年」の身延山の記念事業の一つとして、本学は、平成六年二月二日、学校法人身延山学園・「身延山大学仏教学部仏教学科」(定員四〇名)として、無事、改組転換を成し得、この四月、第一期の学生を迎え入れることと相成りました。これ一重

に、ご本山当局・同窓会をはじめとする関係各聖・各位のご尽力の賜物と、感謝申し上げます。

では、経緯の大略を申し述べます。まず、平成五年四月末日、大学設置の趣旨・教育課程に主点を置いての第一次申請。同七月末の、法人の財政及びその運営を主としたところの追加申請。そして、同一〇月には、二度に亘っての大学設置審議会によるヒヤリング。越えて、平成六年一月七日には、「継続審査」の通知。これを承けて、同年六月末、教員の資格審査と、研究体制の確立の有無とを中心とする第二次申請。同九月二〇日及び一〇月二〇日の、二度に及ぶ大学設置審議会委員による実地調査と実地審査。以上の経緯を経ての「設置認可」でありました。

申すまでもなく、この四月に開校となります「身延

山大学」は、伝統ある僧風教育をバックボーンとして、

「心の教育」を信条とし、現代社会のニーズに応え得る

人材の育成という認識に立っての改組転換でありました。

従って、有為の人材を育成し、法器養成を至上としつつ、

一般にも開かれた国際的な教育を旋せるような体制の構

築こそが、本学の念願とするところのものであります。

宮崎英修学長・仲澤浩祐学部長を陣頭に、全学を挙げて

理念の具現に邁進する所存であります。どうぞ宜しくご

後援賜りますよう、お願い申し上げます。

次いで、本年度の教員の動きについてご報告申し上げます。

ます。長い間、短大・高校の教壇にお立ちいただいております。

りました一宮嘉孝・山田是明の両先生には、一身上のご

都合で、平成七年三月を以てご退職と相成りました。永

年のご法勞に対しまして深甚の謝意を表し、益々のご多

祥を祈念申し上げます。翻って、平成六年四月一日付を

以て、新たに間宮啓壬先生が奉職されました。ご専門は

宗教学であります。何卒、よろしくご交誼の程、お願い

申し上げます。

最後に、会費未納の方へ申し上げます。運営上、難渋

致しますので、ご送金方、宜しくお願い申し上げます。

なお、短大としての『樓神』は本号を以て終りとなり、

次号は名実共に一新されたものなるうかと存じます。

乞うご期待。

(中條記)